

1987.4

# 25年のあゆみ



湯河原ロータリークラブ

1987. 4

25 年 の あ ゆ み



湯河原ロータリークラブ

## 目 次

ロータリーの綱領・四つのテスト.....	1
認承状とバナー.....	2
創立25周年にあたって..... 会長・記念式典委員長 石川 雅雄 .....	3
二十五周年に思う..... 初代会長 天野 弘之 .....	4
創立25周年によせて..... 初代幹事 加藤 福松 .....	5
創立25周年を迎えて..... ㊦13分区分代理 近藤 保 .....	6
湯河原ロータリークラブ創立経緯.....	8
記念式典プログラム.....	9
来賓・招待者御芳名.....	10
湯河原ロータリークラブ歴代役員表.....	12
出席優秀クラブ.....	13
会 員 名 簿.....	14
ロータリーソング.....	17

## ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成するにある；

1. 奉仕の機会として知り合いを拡めること；
2. 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること；  
あらゆる有用な職業は尊重されるべきであると云う認識を深めること；  
そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること；
3. ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
4. 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること；

## 四つのテスト

言行はこれに照してから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか



ROTARY INTERNATIONAL

ROTARY INTERNATIONAL

# This Certifies that the Rotary Club of Yugawara, Kanagawa, Japan

having been duly organized and having agreed, through its officers and members, to be bound by the Constitution and By-Laws of Rotary International, which agreement is evidenced by the acceptance of this certificate, is now a duly admitted member of

## Rotary International

and is entitled to all the rights and privileges of such membership.

*In witness whereof* the seal of Rotary International is hereto affixed and the signatures of its officers, duly authorized, are subscribed hereto this seventh day of May Anno Domini 1962.

*Joseph H. Jones*  
*Raymond M. ...*



## 湯河原ロータリークラブ

- 創立 昭和37年4月20日(1962)
- 承認 昭和37年5月7日(1962)
- 伝達式 昭和38年3月29日(1963)
- 地域 湯河原町土肥広町通りより鍛冶屋・郡道線を経て東海道線より町道吉浜4号線を北上して川掘部落を除く湯河原町



## 創立25周年にあたって

湯河原ロータリークラブ会長 石川 雅 雄  
記念式典実行委員長

本日茲に湯河原ロータリークラブ創立25周年記念式典を開催するに当り、湯河原町長 小沢忠一様はじめ、小林ガバナー、元分区代理 岩崎裕倅殿、今井徳左衛門殿、米山奨学会委員長 蓑島清夫殿、その他近隣クラブ会長、幹事の方々、湯河原南クラブの会員の皆様様の御臨席をいただき、本式典が盛大に行はれますことに先づもって深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

扱て当クラブは昭和37年4月20日に、今は亡き宮坂寛次郎氏を特別代表に、小田原ロータリークラブをスポンサークラブとして創立され、チャーターメンバー24名で発足し、現在39名の会員となりました。

その間湯河原南ロータリークラブも子クラブとして誕生いたしました。歴代会長幹事初め各会員の努力によって、伝統あるクラブとして確固たる基盤をつくりました。特に25周年を迎えることが出来なく御他界なされた元会員の方々の御功績には深甚なる感謝の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

湯河原ロータリークラブは温泉観光地と云う特殊な地域に存在しておりますので、特に他地区からのお客様の多い所でございますから、環境の美化に取り組んで参りました。10周年には城山山頂に山もみじの植栽、20周年には湯河原高校にミモザアカシヤの植栽、25周年には同所に椿の植栽を行って参り、その育成に努めております。又湯河原の緑化計画にも参画し、100万円を寄付するなど、町全体の環境の整備にも常に気をくばって参りま

した。21世紀に向って湯河原温泉も国際観光都市をめざして前進しております上で、当クラブがその一翼をになえれば誠に幸甚でございます。

又本年はR. I. 会長 M. A. T カバラス氏の「*Rotary brings hope*」(ロータリーは希望をもたらす)の言葉通り、ロータリーに入って良かったという満足感が得られる様、各会員が職業奉仕に徹し、その余力を駆って地域社会に貢献していくことが我々の使命であると思ひます。

又本年は偶然にもメタモルフォシス研究所の招きで、東南アジアの留学生のホームステイがあり、その中の一日を当クラブ会員と交流し、国際理解、国際親善の機会を得ることが出来ました。

その他社会福祉法人 湯河原町社会福祉協議会の設立に伴い、評議員として参画し、老人対策にも取組みました。又R. I. の「ポリオプラス」キャンペーンには私自身も感動し、発展途上国の子供達を病気から救うことは、世界平和につながることであると確信し、会員の方々にも強く呼びかけをしております。

私は今後もロータリーの奉仕の理想に向って前進すべく努力をしていく所存でございます。私自身この25周年に遭遇したことを誠に光栄に存じております。

終りに臨み御列席の皆様様の御祝善、御厚意、御友情に御礼申し上げますと共に皆様方の御多幸をお祈り申し上げます。有難うございました。

## 二十五周年に思う

初代会長 天野弘之

中国の書荘子に「君子の交は淡くして水の若く小人の交は甘くして醴(レイ、甘酒の意)の若し。

君子は淡くして以て親しみ小人は甘くして以て絶つ。」とあります。

25年前湯河原ロータリークラブ創立の時この文句が心をよぎりました。

ロータリークラブも色々むづかしいことを表看板にかゝけていますが、所詮は親睦団体ではないでしょうか。

ポール・ハリスも「ロータリーへの私の道」で述べています。「どうかしてこの大きなシカゴでさまざまな職業から、ひとりづつ政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになる筈です」と。

親睦とは人生に於ける珠玉のようなものである。そして友情とか友誼とかは自然発生的なもので、機会さえ得れば成育して親睦に至るものと言えます。

そして之を成熟させる時機を得ることは重要であり且幸運であると言わなければなりません。

その意味で昭和37年4月20日は一つの画期的な日と言えます。

昨日迄一度も口をきいたことのない人々が一堂に会して初めて言葉を交わしました。そしてその後25年間、いくつかの丘を越えいくつかの川を渡りながら、大したさいかいもな

く仲良くなごやかにやって来ました。

何故でしょうか。

それはお互に自己の分を守り、他人の分に踏み込まず、坦々としてつき合ってきたからではないでしょうか。水のように淡白につき合っていくうちに親しみは深くなっていきます。

「ロータリーは昼飯を食べに行く所さ」と良くいわれますし、又ロータリーと一緒に昼飯を食べるだけではいけないとも良く言われます。

しかし共に食べ歓談している間にお互の絆は次第に拡がり太くなっていきます。

凡ての奉仕活動は親睦があつてはじめてできることです。旗をかざして隊伍堂々行進することも立派でしょうが、その前に先づ足下を見たいものです。

ロータリーの諸会合では声高に、ロータリーは如何にあるべきか、などと建前論が論じ合われていますが、偶には何か本音のようなものもかすかに洩らしてみたい気がする昨今です。

これも25年の歳でしょうか。



## 創立25周年によせて

初代幹事 加藤福松

早いもので20周年の乾杯をしたのが、ついこの間のようなのもう5年を過ぎてしまった。

今回の25周年に当って吉光記念誌編集委員長から例会の席で原稿用紙を渡されて記念について書けとのこと。たまたま私が創立時の初代幹事だったのでクラブの何かの行事のたびに書けと云はれるけど、書いたり、しゃべったりが一番二が手なので締切りが近づくと天野屋さんの職業奉仕に徹した美味しい食事もうまくない程追はれるようなあせりを感じる。

何時も型のような思い出話のきまり文句を何度も書くわけにもいかない。委員長の意には添はなくて甚だ恐縮だけど特に印象深いことを私なりに申上げて今回の責めをはたしたい。

我がクラブで今までに一番大きな事業は15周年記念事業として岩井会員提唱の山もみじの植樹ではないかしら。10年すぎた今日では随分大きくなって背丈もある茅の上に大きく頭を出して育っているけど育ちのおせい木なのであと10年位しないと紅葉らしくならないが下草刈りが社会奉仕委員会の号令で例会場を山の現地に変更して夏の盛りの頃行はれる。当日はSAAが用意してくれたお弁当、西瓜、とうもろこし、その他呑ものと盛り沢山の御馳走を冗談やあげ足とりなど談笑のうちに昼食をとる。一年を通じて一番楽しい例会だと思う。私は老齢だからなんにも出来ないけど会員の皆様はなれぬ手つきで鎌を持って汗を流してもみじの廻りの下草を刈る。

こうしたことが会員間の親睦が一番たもてる一日だと思って、植樹を提唱してくれた岩井会員に感謝している。こうした現地での賑かな例会だが裏方を務める事務局の中川さんの努力にお礼を云いたい。

さて25周年と云へばクラブとしても一ツの節目だと思う。この機会にロータリークラブなればこそそのR1中心型の活動でなく日本国内のクラブが一丸となって米山財団を大発展させての社会事業は出来ないものか。私は創立間もない頃から考へてることです。交換学生制度も勿論結構な事業だが、国際的な奉仕精神を幼年時から身につけさせる目的での事業は出来ないだろうか、小学校から大学までを経営する等のことは痴人の夢だろうかしら、全国のクラブには立派な教育家や経営者がメンバーとしておられるので、そうした方々に依頼して可能性の研究してもらったらどうだろうか。片田舎のチツポケなクラブから出た大きな夢が国内クラブの協力を得て実現出来たら素晴らしいことだがナーと考へる。ロータリークラブ今日の大発展もポウルハリス等4人の理想から出発したと云う。正夢でありたい。

最後に私事で大変恐縮だけど創立以来一度も欠席したことがない。勿論ホームクラブだけではないけど、無力な私のせめてもの誇りです。おかげで健康にも恵まれましたが皆様と一週間に一度の会合の楽しさが無欠席でこられたのだと感謝しつつこれからもズーツと例会を楽しみたいと思っている。



## 創立25周年を迎えて

第13分区分区代理 近 藤 保  
湯河原ロータリークラブ前会長

20周年の記念行事を、つい先頃行なった、よ  
うな記憶がするのに、5年が経過した、クラ  
ブの年輪が $\frac{1}{4}$ 世紀を刻んで記念すべき周期で  
もある。国際ロータリーにしても、イリノイ  
州シカゴで、Pハリス、鋳山技師のグスター  
ブス・ローア、洋服商のハイラム・ショレー  
、石炭商のシルベスター・シールの先達が集  
ったのが82年前、1905年2月23日で職業人  
としてそれぞれが違った同志が会合して、最初  
に話し合ったことは、友情であり、親睦であ  
った。会合を重さねるに従って、お互の職業  
を通じて、各個人の人格の向上とともに、他  
人への思いやり奉仕、地区への奉仕へと発展  
会員の増加とともに、クラブ活動の充実、奉  
仕をより強力に支えるためには、出席と親睦  
という2つの大きな要素の相関関係が密接に  
充足されていたのである。先般地区大会が開  
催されたが、第259地区95クラブ、会員数52  
75人と発表され、会員の増加とともに、より  
分化し増加する、第259地区も、その機運が  
熟成されつつある。太陽の沈む時はあっても  
国際ロータリーの活動は活発に続けられ、例  
会は、間断なく開かれている、世界160ヶ国  
の地域にクラブ数22,144、会員数1,012,049名  
我が国のクラブ数1,708、会員数は10万人と  
もいわれている、3月28日第13分区分のIGF  
が開催され7クラブ、会員数337人陽春の輝  
やかな光のもとに、足柄平野を一望に見渡  
せる、大井町のカー生命の講堂で国際理解、  
会員増強の重要なテーマが取り上げられた。  
各会社は決算期の最も繁忙期にもかかわらず

多数の会員が出席して、大変熱心に勉強し、  
討論をしている光景を見て、自己の職業の向  
上を図る上からも益するところはあるか。企  
業人として終日の出席は会社としては大変な  
支障を期たすことであろうに、親睦を深め、  
地域社会に奉仕の機会を且つ国際的友好を得  
る唯一の機会として、一堂に会する積極性は  
感無量なものがある。湯河原ロータリークラ  
ブは40名、小さい単位であるが、1人1人の  
ロータリアンの力の結集が、分区分区、国際  
的世界到るところに友情の輪を拡げ、世界  
理解と平和の砦を築く、常に自己の職業を通  
じて、最もよく奉仕する、超我の奉仕、湯河  
原クラブは10周年の記念事業として、湯河原  
の山奥大観山の城山に山紅葉を植樹した、そ  
の当時の苗木は、見るかげもなく小さな植木  
であったはず、15年の歳月育てる愛情、奉仕  
の成果は見事にその姿を次々に城山に現はし  
ている、酷熱の夏の日盛の下草刈は、苦しい  
が、炎熱をさえぎる、やさしい山紅葉の木陰  
が、汗し流れる憩いの場として、会員を呼ん  
でいる、年毎の苦難の炎熱灼くが如き、作業  
の積み重なが、やがて湯河原の紅葉の名所  
となり、湯河原を訪れるであろう、人々、観  
光客に自然の美しさ、喜びを彼らに与えるで  
あろう。

どんなに小さな灯、ささやかな奉仕でもロー  
タリアンの多くの友情と善意の奉仕活動は  
続けられている。世界のどこかで、幼ない子  
供の苦しみ、病、飢餓、恐怖と欠乏から免が  
れるため、ロータリーの「綱領」のもとに、

奉仕の実践を具現化し、夢と希望と平和を、  
恵ぐまれない人々にもたらす使命観が燃えて  
いる25周年を一つの期として、境として、自  
分の職業にベストを尽くし、健全なる社会人  
として、神奈川県最西部の位置にあっても  
風光明媚、自然の環境に恵ぐまれ、湧き出る  
温泉、国際観光の地としても、恵ぐまれすぎ  
た地域にあればこそ湯河原という狭隘な谷間  
からも、世界を見る目、国際性の観点から理  
解を求め、湯河原ロータリークラブ25周年の  
永遠の希望の一条の光を世界の平和に捧げる  
ことを念ずるものである。

# 湯河原ロータリークラブ創立経緯

## 第一回準備会

日時 昭和37年2月26日 午後3時  
 場所 天野屋旅館新館  
 天野弘之氏提唱により湯河原ロータリークラブ  
 (仮称) 結成につき準備会開催  
 出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、小沢新太郎、植原正愛、加藤福松  
 決議 1. 小田原ロータリークラブをスポンサークラブとして湯河原ロータリークラブ(仮称)を設立すること。  
 2. 本日会合の6氏をキーマンと決定。

## 第二回準備会

日時 昭和37年3月2日 午後2時  
 場所 天野屋旅館新館  
 出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、小沢新太郎、植原正愛、加藤福松  
 決議 1. 当初25名位にて発足の事。  
 2. 来る3月15日各地区(真鶴・吉浜・温泉場・奥湯河原)予想メンバー持参のこと。

## 第三回準備会

日時 昭和37年3月15日 午後3時  
 場所 天野屋旅館新館  
 出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、小沢新太郎、植原正愛、加藤福松  
 スポンサークラブ小田原ロータリークラブより指導として  
 飯沼相三郎 小田原ロータリークラブ理事  
 佐藤 兼吉 " "  
 井上 仙蔵 小田原ロータリークラブ幹事  
 八亀 武雄 湯河原町長  
 橋本 徳治 真鶴町長  
 チャーターメンバー浜田三郎、平井吉之助  
 矢ノ下美知雄、三氏欠席の外全員

## 湯河原ロータリークラブ創立総会次第(案)

1. 開会の辞 スポンサークラブ幹事 井上 仙蔵
1. 君が代斉唱
1. 来賓紹介 特別代表 宮坂寛次郎
1. 経過報告 同上
1. 議事 議長 特別代表
1. 役員選任 同上
1. 役員発表 同上
1. 会長挨拶
1. メンバー紹介 湯河原クラブ会長
1. ガバナー告示 中村米平ガバナー
1. 来賓祝辞
1. 閉会の辞 湯河原クラブ副会長

以上  
 準備会は和気あいあいのうちにも極めて厳粛に行われ定款の決定並に役員選任は議長一任として定款は別添標準ロータリークラブ定款並に推奨クラブ細則に則り、役員は別項の通り決定した。

理事会 長 天野 弘之 幹事 加藤 福松  
 理事 副会長 小沢栄三郎 会計 八亀 広蔵  
 理事 小沢新太郎 会場監督 八亀 昌美  
 " 植原 正愛 理事 高橋 柳吉

## " 伊藤 鶴松

職業奉仕委員長 小沢新太郎  
 社会奉仕委員長 植原 正愛  
 国際奉仕委員長 高橋 柳吉  
 クラブ奉仕担当理事 小沢栄三郎

尚ロータリークラブ関係の来賓及八亀湯河原、橋本真鶴両町長からも丁重な祝辞を頂戴した。式後盛大なビールパーティーでクラブの発展を祝し、仮クラブとして発足した。又、定款中に入会金 ¥ 10,000.00 会費年額 ¥ 20,000.00 例会日 毎週金曜日午後12時30分より1時30分、例会場 西相信用金庫本店会議室と定められた。

特別代表 宮坂氏 事務員 堀氏 出席

決議 1. チャーターメンバーとして次の通り24名を決定。

## 湯河原ロータリークラブチャーターメンバー

天野 弘之 日本旅館 杉山 実石油販売  
 五十嵐寅治 ホテル 柏木 英雄 幼稚園  
 八亀 昌美 日本料理 加藤 福松 請負業  
 平井吉之助 石材販売 脇山 長男 港湾建設  
 橋本 平三 住宅経営 松井 利男 信用金庫  
 小沢栄三郎 不動産賃貸 矢ノ下美知雄 短期金融  
 八亀 広蔵 温泉経営 植原 正愛 繊維品販売  
 吉光 関蘭 耳鼻咽喉科医 直居 重雄 ゴルフコース  
 平間 茂夫 歯科医 佐藤 咲三 ヘルズリゾート  
 中根 孝保 医学研究 高橋 柳吉 観光事業  
 伊藤 鶴松 旅館組合 小沢新太郎 柑橘栽培  
 熊本 賢三 精油製品販売 浜田 三郎 病院  
 2. 小田原ロータリークラブへチャーターメンバー提出のこと

## 第四準備会

日時 昭和37年4月4日 午後2時  
 場所 天野屋旅館新館  
 出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、小沢新太郎、植原正愛、加藤福松  
 スポンサークラブ小田原ロータリークラブより指導のため 堀事務員 出席

決議 1. 創立総会を次の通り決定  
 日時 昭和37年4月20日 午後1時  
 場所 天野屋旅館新館ロビー  
 2. 各チャーターメンバーの職業分類再確認  
 3. 定款案決定  
 4. 4月9日(月)小田原ロータリークラブ例会をキーマンは見学のため出席のこと。

## 創立総会

日時 昭和37年4月20日 午後1時  
 場所 天野屋旅館新館ロビー  
 来賓 中村 米吉 地区ガバナー  
 柳瀬 省吾 バストガバナー  
 湯浅 恭三 ガバナーノミニール  
 清瀬 二郎 拡大委員  
 岩崎 裕彦 第二分区分代理  
 宮坂寛次郎 特別代表  
 武田 国三 小田原ロータリークラブ会長  
 今井徳左衛門 小田原ロータリークラブ幹事